

**NEW SLETTER NO.31**  
**Organic Geochemistry**  
**有機地球化学研究会 2000.5.15**

第 18 回有機地球化学シンポジウム(南大沢シンポジウム II)  
ファーストサーキュラー

世話人代表 奈良岡浩

会員各位

昨年の弘前シンポジウムの際にみなさまにお知らせしたとおり、今年は東京都立大学理学部で第 18 回有機地球化学シンポジウムを引き受けることになりました。南大沢では 1994 年の第 12 回に引き続き 2 回目の開催になります。

下記の要領で開催したいと考えておりますので、会員の皆様には、シンポジウムの成功にむけて、ぜひご協力下さるようお願い申し上げます。

記

**1. 日程**

2000 年 7 月 27 日(木)シンポジウム(講演およびポスター)・  
運営委員会・懇親会

7 月 28 日(金)シンポジウム(講演およびポスター)・総会

**2. 会場**

八王子市南大沢 1-1  
東京都立大学国際交流会館大会議室  
(京王相模原線南大沢駅徒歩約 10 分)

**3. 開催までのスケジュール**

発表申込締切: 6 月 23 日(金)

同封の申込書もしくは E-mail にてお申し込みください。

セカンドサーキュラー発送: 7 月 7 日(金)

発表要旨締め切り: 7 月 14 日(金)

**4. 連絡先**

〒192-0397 八王子市南大沢 1-1  
東京都立大学理学部化学科 環境・地球化学研究室 奈良岡浩  
TEL: 0426-77-1111 (内) 3437, FAX: 0426-77-2525,  
E-mail: naraoka-hiroshi@c.metro-u.ac.jp

## 5. 発表要旨

発表要旨は、講演・ポスターともに1題につきA4版1頁で作成していただきます。お送りいただいた原稿はA4版のままで綴じて、シンポジウム当日に配布いたします。発表要旨は、下記または前回シンポジウムの要旨集を参考にして作成して下さい。

「余白(上25mm,下30mm,左右20mm程度),行数(本文35行程度),文字大きさ(11ポイント程度),1・2行目はタイトルと発表者氏名(センタリング,発表者の氏名の前に,連名は・で区切る,所属は名前の後にカッコ書),3・4行目は英文タイトル・氏名・所属」

## 6. 発表形態

今回は講演会場近くでポスター発表も可能です。ポスターボードの大きさは幅120cm x 高さ130cmです。ピンなどはこちらで用意させていただきます。

## 7. 参加費および懇親会費

シンポジウム参加費:一般1,500円 学生1,000円

懇親会費:一般4,500円 学生2,000円

(シンポジウム当日徴収させていただきます。尚、懇親会々場は国際交流会館レストランを予定しています。)

## 8. その他

今回は東京地区での開催ですので、宿舎は各自手配願います。残念ながら南大沢駅近辺にはホテル等の宿泊施設がありません。多摩センター駅(京王相模原線・小田急多摩線)または橋本駅(京王相模原線・JR横浜線)が便利と思います。いずれも京王相模原線で2駅区間の乗車(約8分)で南大沢駅です。

下記にホテル名と電話番号を載せましたのでご利用の方は早めのご予約をおすすめいたします。なお、料金の変動は予想されますのでご予約時にご確認下さい。

### < 橋本駅 >

- ・橋本シティホテル (042-774-8100) S 6,120円 (1泊、税・サ込) 橋本駅北口徒歩3分
  - ・橋本パークホテル (042-774-6112) S 5,800円 (1泊、税・サ込) 橋本駅北口徒歩5分
- 上記ホテルはご予約時に「都立大・有機地球化学」と言っていたいただいた場合の料金です。

### < 多摩センター駅 >

- ・京王プラザホテル多摩 (042-374-0111) S 10,000円 (1泊、税・サ別) 多摩センター駅徒歩1分
- ・サンピア多摩 (042-376-8511) S 6,600円 (1泊、税・サ込) 多摩センター駅徒歩12分

### < 調布駅 >

- ・調布クレストンホテル (0424-89-5000) S 9,700円 (1泊、税・サ別) 調布駅徒歩1分
- ・サバーブイン調布 (0424-83-2791) S 7,800円 (1泊、税・サ込) 調布駅徒歩1分

### < 八王子駅 >

- ・マロウドイン八王子 (0426-23-7111) S 8,805円 (1泊、税・サ込) 八王子駅徒歩3分
- ・三恵シティホテル八王子 (0426-22-3388) S 6,090円 (1泊、税・サ込) 八王子駅徒歩4分

以上

## 有機地球化学賞(学術賞)2000年度受賞候補者推薦の募集

有機地球化学賞(学術賞)受賞候補者選考委員会

委員長 下山 晃

有機地球化学賞(学術賞)受賞候補者選考規則により、同賞受賞候補者推薦を受け付けます。つきましては、下記をご参照のうえ受賞候補者をご推薦下さい。

### 記

候補者の資格：有機地球化学分野で顕著な学術業績をあげた本会会員。

推薦の方法：本会会員による推薦(自薦他薦を問いません)。

推薦書類：下記の項目についてA4サイズの内紙に任意の形式で記入。

- 1) 候補者の履歴書(学歴、大学卒から；職歴；その他)
- 2) 推薦の対象となる研究題目及びその推薦理由
- 3) 研究業績目録(推薦の対象となる主要な論文10編)
- 4) 推薦者氏名、連絡先

締切日：2000年5月31日(水)(当日消印有効)

提出及び問い合わせ先：〒305-8571 つくば市天王台1-1-1 筑波大学 化学系 下山 晃

電話&Fax：0298-53-6510，e-mail：ashimoya@chem.tsukuba.ac.jp

## 研究奨励賞(田口賞)2000年度受賞候補者推薦の募集

研究奨励賞(田口賞)受賞候補者選考委員会

委員長 福島 和夫

研究奨励賞(田口賞)受賞候補者選考規則により、同賞受賞候補者推薦を募集いたします。つきましては、下記ご参照のうえ適切と考えられる受賞候補者を自薦他薦を問わずご推薦下さい。なお締め切りが例年より1ヶ月早まっていますのでご注意下さい。

### 記

候補者の資格：生年月日が1966年4月2日以降で、有機地球化学、石油地質学、堆積学の分野で優れた研究を行い、将来にも研究の発展を期待できる方。本会会員に限りません。

募集の方法：本会会員の推薦による。

推薦の方法：下記の書類をA4サイズの内紙に任意の形式で記入する。

- 1) 推薦書(自薦の場合は自分で)および研究題目
- 2) 履歴書
- 3) 研究業績目録

4) 締切日：2000年5月31日(水)(当日消印有効)

5) 提出先：〒390-8621 松本市旭3 1 1 信州大学理学部物質循環学科 福島 和夫

6) 問い合わせ先：電話：0263-37-2502；FAX：0263-37-2560

e-mail：[kfukush@gipac.shinshu-u.ac.jp](mailto:kfukush@gipac.shinshu-u.ac.jp)

## 有機地球化学研究会の歴史(2)

### —*News Letter* からよむ発展史

札幌学院大学 秋山雅彦

前回は有機地球化学談話会の創設から、1980年に始まった田口総研が成功裡に終了したところまでを紹介した。今回は、本研究会の歴史を知る上で最適な方法として、1977年に発刊された創刊号からNo.30に至るニュースレターの掲載内容を紹介することにしたい。

\*\*\*\*\*

No.1 1977/03/20 談話会事務局が東京都立大学におかれたことと、ニュースレターの掲載内容について述べられている(下図参照)。

- No.2 1977/10/15 川渡シンポジウムと第8回談話会報告と第9回談話会の開催のお知らせ.
- No.3 1979/06/01 第4回有機地球化学シンポジウム開催(東大海洋研)のお知らせと第9回と第10回の談話会報告.
- No.4 1981/04/30 第5回有機地球化学シンポジウム開催(大滝セミナーハウス)のお知らせ.
- No.5 1981/06/23 第5回有機地球化学シンポジウム開催(大滝セミナーハウス)のプログラムと参加申し込み.
- No.6 1982/09/22 談話会(琉球大学)開催のお知らせ.(第6回有機地球化学シンポジウムは中津川で開催されたが, ニュースレターには掲載されていない)
- No.7 1985/05/15 第7回有機地球化学シンポジウム(帝国石油(株)技術研究所)開催のお知らせ.  
1984/10/18 名古屋大学で開催の談話会報告. その会で「有機地球化学談話会」から「有機地球化学研究会」への名称変更が承認された. 研究室紹介(北海道大学理学部地鉱教室). 下図は研究会としての最初の News Letter.

No.8 1986/09/10 地球化学会年会で研究会の夜間小集会開催のお知らせ. 1985年8月総会(帝

国石油(株)技術研究所)と同年10月の総会(筑波大学)報告. 有機地球化学研究会の会則が制定された.

- No.9 1987/04/25 第8回有機地球化学シンポジウム(島根大学理学部)開催のお知らせ.
- No.10 1987/10/12 第8回有機地球化学シンポジウム(島根大学理学部)と総会の報告.
- No.11 1989/03/16 第9回有機地球化学シンポジウム(筑波研究学園都市)開催の案内と1987年度の会計報告.
- No.12 1989/08/25 第9回有機地球化学シンポジウム(筑波研究学園都市)報告と1989年総会記事. 夜間小集会(東京大学教養学部)開催のお知らせ.
- No.13 1990/06/21 1990年度総会(新潟大学, 夜間小集会)開催のお知らせ. 事務局が石油資源開発(株)技術研究所に移転.
- No.14 1991/03/24 1990年度総会(新潟大学教養部)記事. 第10回有機地球化学シンポジウム(湯沢カルテチャーセンター)開催の案内.
- No.15 1991/05/31 第10回有機地球化学シンポジウム(湯沢シンポジウム)2<sup>nd</sup> Circular.
- No.16 1992/01/30 夜間小集会(愛媛大学教養部)報告. ROG編集方針の提示. マンチェスターでの15th International Meeting of Organic Geochemistry 参加報告.
- No.17 1992/08/21 1992年度総会開催(東京農工大学農学部)のお知らせ. ROGの編集方針(案). 会員名簿102名, 賛助会員3社.
- No.18 1992年度総会記事. 第11回有機地球化学シンポジウム(大牟田シンポジウム)ファーストサーキュラー.
- No.19 1993/10/30 第11回有機地球化学シンポジウム(大牟田シンポジウム)報告. 1993年度総会記事.
- No.20 1994/04/01 第12回有機地球化学シンポジウム(多摩シンポジウム)開催お知らせ. 石炭組織学国際シンポジウムのお知らせ.
- No.21 1994/08/14 第12回有機地球化学シンポジウム(南大沢シンポジウムに名称変更)報告. 1994年度総会報告. 会員名簿, 会員数106名, 賛助会員3社.
- No.22 1995/10/30 第13回有機地球化学シンポジウム(松本シンポジウム)報告. 1995年度総会記事.
- No.23 1996/10/04 第14回有機地球化学シンポジウム(烏山シンポジウムII)報告. 1996年度総会記事. 石油資源開発(株)技術研究所から地質調査所への事務局の移転とホームページと

メールグループ[ROG]の開設のお知らせ.

- No.24 1997/05/06 有機地球化学研究会奨励賞(田口賞)1997年度授賞候補者推薦の募集. 故田口一雄夫人から「田口賞」基金への寄付.
- No.25 1997/10/31 第1回研究奨励賞(田口賞)が山本正伸・山田桂太の両会員に(カラー写真付き). 運営委員会報告と第15回有機地球化学シンポジウム(松江シンポジウムⅡ)開催報告. 1997年度総会記事. 会則(1997年7月29日改定). シンポジウムのスナップ写真(カラー印刷).
- No.26 1998/05/285 有機地球化学研究会奨励賞(田口賞)1998年度授賞候補者推薦の募集. 第16回有機地球化学シンポジウム(幕張シンポジウム)ファーストサーキュラー.
- No.27 1998/07/09 第16回有機地球化学シンポジウム(幕張シンポジウム)セカンドサーキュラー. 新刊紹介:田口一雄(著)石油の成因.
- No.28 1998/10/30 第16回有機地球化学シンポジウム(幕張シンポジウム)開催報告(記念撮影カラー写真付), 古宮正利会員が第二回研究奨励賞(田口賞)受賞, 運営委員会報告. 1998年度総会記事. 会則(1998年7月31日改定).
- No.29 1999/05/14 有機地球化学研究会奨励賞(田口賞)1999年度授賞候補者推薦の募集. 28号までのB5版からA4版の大判となる.
- No.30 1999/10/13 第17回有機地球化学シンポジウム(弘前シンポジウム)開催報告. 第1回有機地球化学賞(学術賞)が鈴木徳行会員に. 運営委員会報告. 1999年度総会記事とROG国際登録の報告. 学術賞および田口賞2000年度授賞候補推薦の募集. 研究会の歴史(1), 第19回IMOG参加報告記事. 会則(1999年7月28日改定)と学術賞および田口賞の受賞者選考規則など.
- No.31 今回の News Letter.

次回(3)では, シンポジウム開催とROG刊行を総括して紹介したい.

ROG(Researches in Organic Geochemistry 誌)投稿原稿募集

有機地球化学研究会 ROG 編集委員会  
信州大学理学部物質循環学科 福島和夫

ROG 誌は、現在この夏のシンポジウム開催時に配布できるよう、Vol.15 の最終編集作業が進められています。昨年の総会でお話し申し上げましたように、ROG 編集委員会としては原稿が多く寄せられるようであれば、発行頻度を高めるよう提案することを考えています。このことは、受理後できるだけ速く刊行されるという雑誌にとって非常に大きな利点につながります。そこで編集委員会では、昨年から年間を通じていつでも原稿を受付ける体制をとり、準備を整えています。かぎとなることは、投稿数です。

今回のシンポジウムを含め、夏から秋にかけて、学会発表の機会が増えて来ます。これはまた研究成果をまとめ、考察を深める良いチャンスでもあろうかと思えます。ぜひ早め早めに準備をされ、ROG にご投稿下さるようお願い申し上げます。

原稿の送付先：〒390-8621 松本市旭 3-1-1 信州大学理学部物質循環学科 福島和夫

### 移動された会員の皆様へ事務局からのお願い

職場や自宅を移動された方は名簿作成と郵便物配布のため新しいご住所、電話番号、ファックス番号を下記までご連絡下さい。

〒305-8567 茨城県つくば市東 1-1-3 地質調査所地殻化学部 猪狩俊一郎  
Tel:0298-61-3720, Fax:0298-61-3566, E-mail: igari@gsj.go.jp

発行責任者、有機地球化学研究会会長 石渡 良志  
〒168-0071 都内杉並区高井戸西3-16-11  
電話番号 03-5930-7634  
有機地球化学研究会事務局  
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3  
地質調査所資源エネルギー地質部内  
電話番号 0298-61-3677 FAX 0298-61-3666  
郵便口座 00110-7-76406  
(加入者名 有機地球化学研究会)  
銀行口座 常陽銀行研究学園都市支店  
普通口座 1379974 (名義人 有機地球化学研究会)

有機地球化学研究会ニュースレターはホームページでもご覧になれます。

アドレス：<http://www.gsj.go.jp/dFR/rog.html>

2000 年 月 日

発表申込書 ( 6 月 23 日必着 )



第 18 回有機地球化学シンポジウム（南大沢シンポジウム II）

発表を 1．行います ・ 2．行いません（いずれかに）  
懇親会に 1．参加します ・ 2．参加しません（いずれかに）

1．氏名

2．所属

3．連絡先の住所・電話・FAX・E-mail

4．発表形態

1．講演            2．ポスター            3．どちらでもよい（いずれかに）

5．発表題目

6．使用機器（講演発表の場合）

1．OHP（ ）台使用    2．スライド（ ）台使用  
をつけ、台数を記入してください、できるだけOHPの使用をお願いいたします。

7．発表者氏名（所属）（連名の場合、発表者に    をつけてください）

8．発表に関するご希望（発表日時・発表順など）

「申込書の送付先」（申し込みは、郵送・FAX・E-mail のいずれでも可です。）

〒192-0397 八王子市南大沢 1-1 東京都立大学理学部化学科  
環境・地球化学研究室 奈良岡浩  
TEL：0426-77-1111（内）3437，FAX：0426-77-2525，  
E-mail:naraoka-hiroshi@c.metro-u.ac.jp